



# 三組のけんせつ小町チームが発表 「けんせつ小町サミット2023」

二月二十二日に「けんせつ小町サミット二〇二三」がZoomウェビナー形式で開催された。本イベントは「国際女性会議WAW!」の公式サイドイベントとして認定されており、約四〇〇名が参加した。

前半は、けんせつ小町部会の細川珠生部会長（三井住友建設㈱取締役）による基調講演「『ジェンダー主流化』におけるけんせつ小町の意義」が行われた。細川部会長は、ジェンダー主流化は岸田政権が掲げる新しい資本主義の中核となるものであるとし、ジェンダー主流化を推進していくために政府が掲げる政策について説明。また細川部会長が「国際女性会議WAW!」に参加した際に、世界各国の女性リーダーたちとの対話を通して知り得た先駆的な取り組みを紹介。「けんせつ小町がジェンダー主流化の象徴であると思っています。どうか皆さん

もこれからの建設業界を進化させていくきっかけを、本日のけんせつ小町サミットでつかんでください」とメッセージを送った。

基調講演に続き、けんせつ小町工事チーム三組による活動紹介が行われた。

## 一、「札幌こまち」（飛鳥建設㈱）

女性八名で構成されている「札幌こまち」は、北海道新幹線の札幌と札幌を結ぶトンネルのうち、約四、五〇〇mの区間の施工を行っている北海道新幹線札幌トンネルの現場で活動しており、受注者は飛鳥・梅林・松谷・高橋の四社によるJV（共同企業体）である。

同JVでは、現場の状況を確認するための周知会を週一回実施しているが、その周知会を遠隔で行うことで施工サイクルに関係なく安全に立ち会いができるよう工夫してい

る。また、作業所内が快適で働きやすくなるように、トンネルの出口にエアシャワーを設置して常に清潔な状態を保てるよう配慮したり、北海道という寒冷地のため暖をとるための技能者待機所を設置するなどしている。職員の宿舎は一人に一部屋提供され、男性と女性の生活範囲も分けるなど住環境への配慮にも触れた。

発表者である入社四年目の鳥潟さんは、小学生の時にトンネル現場を見学したことをきっかけに建設業に入職した。その経験から小学生を対象とした現場見学会には力を入れており、「今後も積極的に開催したい」と発言。発表の最後には「札幌こまちが生き生きと働くことができています。所長をはじめ事務所の職員さん、協力会社の皆さん、地域の皆さんの協力があったことだと思います」と感謝を述べ

## 二、「Fladies」（㈱竹中工務店）

二棟からなる研究施設を施工しているTSRC大宮作業所で活動する「Fladies」。メンバーの三割が女性、六割が二十代というチーム構成で、男女関係なく一丸となつて「一番の記憶に残る作業所」になることをテーマに掲げている。

同工事チームが注力しているのは、①音声看板の設置やイベントの実施といった作業環境の改善、②リモート施工補助人材の活用、③育休を取得しやすい環境づくり、④若手の育成、⑤ITツールの活用だ。①では、人を感じて自動で音声が出る音声看板を設置して、コロナ対策や現場の美化などを声掛けしている。②はリモート施工補助人材として、山形に在住し子育てをしながら

ら農業にも従事しているスタッフとの連携を紹介。子育てをしながら働けるロールモデルづくりにもつなげている。③では男性職員が育休を一カ月取得していることに触れ、発表者の大堀さんは「いろいろなカラーの人がいる時代。フレキシブルに対応できる現場にしたい」と語った。

## ④では七〇歳のベテラン職員と一

緒に現場を回ること、若手が知識を吸収。その一方で、ベテラン職員も長く働き続けられる環境づくりに力を入れている。そして、⑤ではTeamsの活用により作業時間の短縮につながっているといった事例が多数紹介された。

## 三、「MAEDAみつば会」（前田建設工業㈱東京建設支店・東京土木支店・関東支店）

「MAEDAみつば会」は三つの支店で構成されている珍しいチームだ。発表者の秋山さんは、女性基幹職を対象に二〇一八年に設立された同チームの背景を説明。支店や職種を越えて交流し、女性特有の悩みを相談したり、情報共有する場を設けて様々な問題を解決してきた。発足当初は二五名だったが、現在は五二名と大所帯だ。

同チームでは、作業所のハード・ソフト両面について基本ルールを作成し、男性中心の職場では気付きにくいポ

イントをチェックすることで職場環境の改善を重ね、男女問わず快適に仕事ができる環境づくりを目指してきた。またリクルーティングを中心としたけんせつ小町の動画作成、作業所の現状把握や設備向上のための方策提案を目的とした作業所パトロール、事務所設営コンサルティングなど幅広く活動している。加えて支店間での交流会を実施し、女性技能者をゲストとして迎えた意見交換会も実施している。そうした活動で得た情報を全社に水平展開できるように、社内掲示板に「みつば会通信」として配信している。秋山さんは「規模が大きくなったからこそ、一部の職員に負担がかかりすぎない組織運営体制を構築していくこと」と今後の課題にも触れた。

三者三様の活動紹介が終わった後は、細川部会長をファシリテーターとしてトークディスカッションへ。「自然な形で男女関係なく活動するコツは？」など、円滑なコミュニケーションや周囲の人を巻き込むためのコツなど組織づくりへの質問が集中した。細川部会長は、「男性が入る、リモートワークもする、こうした広がりのある活動がこれから主流になっていくと感じましたし、コミュニケーションを円滑にすることで、良いものをつくることにつながっていくのだと思います」と締めくくった。



リモートでの開催の様子。参加チームの発表も滞りなく行われた。



動画は下記二次元コードからアクセスしてご覧ください。

